



## 東部クリーンセンターの 跡地利用を考える

# 「民間に売却しないで」



3月17日に醍醐交流会館で「東部クリーンセンターの跡地利用を考える会」主催の報告会が開かれました。昨年12月に「跡地を売却しないことや、住民の意見を聞くことなどを求める」請願署名が議会に出されました。1回目の審議では留保になりましたが、2回目で不採択になりました。その理由は「跡地売却をしないように求める請願を採択すれば、活用の選択肢が狭くなる」というものでした。「会」の代表からその経緯の報告があり、その後西野さち子から跡地活用についての議会の様子を報告しました。ほぼ、参加者で椅子が埋まり「チラシを見してきました」と深草からわざわざ来られた方もあり、関心の高さが感じられました。会場からは「活用のイメージ図を作った」「少年野球の合宿場所も兼ねたものがあれば」「スケボーができる場所を」「交通の便利な場所だから、若者も使える施設やベビーカーでも集える場所にすれば、若者が集まる街になる」「老人保養センターはお風呂だけでなく、今、作品展も開催していて、コミュニティの場。なくなったら困る」など、様々な意見が出ました。一致していたのは「民間に売却しないで」ということでした。新たな署名活動を広げることになりました。



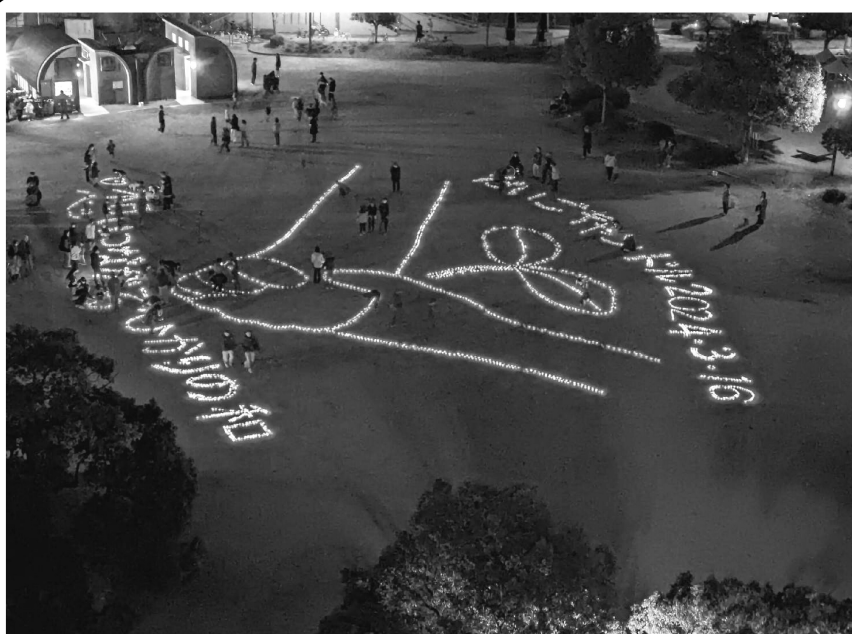
## みなさんの声をエネルギーに、議会で徹底論戦！！

今議会は、市長選挙の直後のため、第一次編成予算です。5月議会に第二次編成予算が提案される予定です。そのため、例年の半分の質疑時間しかありません。

**環境局**では、東北部クリーンセンターやごみ収集業務の民間委託拡大は、市民に責任が持てなくなるため、民間委託の中止を求めました。また、伏見工業高校跡地売却について、国の環境先進都市の取り組みを活用するというが、住民の安心安全が守れない計画のまま跡地売却は許されないと質しました。3万9千㎡の土地を18億1千万円で売却するものです。

**総合企画局**では、北陸新幹線京都地下延伸計画の中止の決断を求めました。「第二国土軸」というが、膨大な建設費の負担や大量の土砂、地下水問題、環境悪

化の問題など、山積している課題には何も答えることができませんでした。また、東部クリーンセンターの跡地活用について、住民の声は売却ではなく市民のための活用だと質しました。当初計画は3万7千㎡だったものが、都市計画の緩和以降4万4千㎡に変化している点について質すと、「外環状線への接道が広くなれば活用しやすい」と老人保養センターと図書館は売却に邪魔と言わんばかりの答弁でした。しかし、「必ずしも売却とはなっていない」自民党の質問に活用の対象は「商業地や住居、緑地などの活用も含め」と今までになかった「緑地」という言葉がありました。住民の声が答弁に変化をもたらしています。



## 醍醐キャンドルが今年も灯る

3月16日に今年も醍醐キャンドルがとりました。「想いつながるひかりの和 醍醐キャンドル2024.3.16」の文字が風に消されることなく、醍醐地域の皆さんの思いを映し出しました。3.11の東北地方大震災の被災者を悼むことで始まった醍醐キャンドルですが、今年は能登半島の震災の被災者に向けても黙とうが行われた後、準備が開始されました。風もなく暖かい日で良かったです。翌日は公園の掃除の後、使用した紙コップは、皆さんの思いがこもっているので、例年通り長尾神社でお焚き上げをしていただくために届けられました。スタッフの皆さんご苦労様でした。